

洋書輸入協会会報

VOL. 3

NO. 11

昭和44年11月

理事会及び懇談会報告

10月13日（月）理事会

(一) British Week 委員会報告。

- (1) 入金記録とスリップ記録との間に誤差があり、その処理について。
- (2) 出品各社の協会への寄附形式の件。
- (3) 出品各社への支払い時期の件。
- (4) 納会の件。

(二) 協会事務所室料値上りの件。

11月より、40,000円から42,000円へ。

(三) 関西支部より。

北尾書店新社、協会脱会の件。9月末を以て長期休業のため脱会されたい由、承認。

(四) 通関委員会より。

東京外郵便協賛会結成の件。当協会より、5口加入することとする。1口年額2,400円。

(五) ドイツ・マルク問題につき意見交換。

10月18日（土）理事会

(一) 渉外・PR委員長より。

- (1) British Week 納会への招待状発送の件。
- (2) 英国Book Development Council の Mr. Harris より、British Week に関し、協会宛丁重な礼状到着の件。
- (3) 英国より、70年万博の British Book Corner を協会によって運営、又は運営社のあっせんをされたい旨の申し入れの件。
- (4) McGraw, Mr. Owens より Promotion Salesman 取得の雑誌の分配に関する申し入れの件。

(二) フランス・フラン切下げに伴う小額本及び仕入条件の悪いもの等についての意見交換。

(三) ドイツ・マルク問題につき意見交換。

10月23日（木）懇談会

日本出版クラブにおいて、午後3時より懇談会を開催。出席29社。

司会：洋販渡辺氏。

(一) British Week の経過報告。（関口、栗原、相良）

(二) 合同セール報告。（服部）

(三) フランス・フラン切下げに伴う諸問題。（相良）

(四) ドイツ・マルク問題意見交換。

以上にて午後5時終了、次いで British Week の成功裡の終了に伴い、関係各位への感謝の意をこめて、英国大使館関係者及び各出版社代表を招き、納会パーティを開催、盛況裡に過しました。

10月27日（月）理事会

ドイツ・マルク切上げ発表につき、対策に関し意見交換。

10月28日（火）懇談会

午後5時より出版クラブにおいて。

出席26社。

司会：洋販栗原氏。

ドイツ・マルク切上げに伴う諸問題につき意見交換。

11月10日（月）理事会

(一) 英国 Mission 来日の件。

東京到着：11月15日

離日：11月29日

メンバー：14社及び Book Development Council の Mr. Phillips 計15名。

(二) 英国 Mission 提示の議題に関する討議。

(三) 関西支部より連絡の、ノベルティ・ブック・サービス株式会社入会申請の件、討議の結果承認。

紹介者：梅田書房・海外書籍貿易商会。

(四) ドイツ・マルク切上げ後の諸問題について。

(五) グヌング・アグング商会、協会脱退の件。

国際情勢に加え種々の理由により、当分の間休業することとしたため、10月末日をもって脱会されたい由。承認。

関西支部だより

緊急例会開催。10月29日 於協会支部事務所

PM4.30～6.00 出席17社。

ドイツ・マルク切り上げ対策並びに情報交換す。

国際書籍展視察旅行を了えて

Frankfurt の国際書籍展を主とした協会をはじめのヨーロッパ視察旅行の計画が発表されたのは、初夏も五月のころでした。24日間の内容の豊かさと例のない費用の廉さで、はじめは定員オーバーを案じていましたが、9月下旬からの英国展や秋の雑誌予約の多忙な時期につながったためもあり、この試みは危うく挫折しそうな雲ゆきで9月まで難行をきわめました。幸い皆さまのご協力とご努力によって総員52名ながら、10月1日にめでたく羽田を出発できたときは、先の不安よりもまず安堵の胸をなでおろしたものです。

往きはSAS機の南廻りで、Manila, Bankok, Karachi, Teheran, Athainaiの各空港で小憩の間に未知の国々の夜景をたのしみ、塔乗のたびに出されるさまざまな機内食サービスにうれしい悲鳴をあげながら、Roma近郊のLeonardo da Vinci空港に下りたのは朝霧けぶる5時すぎでした。ここで以後London空港までの21日間を、クリヤーとしてしかも殆んどガイドを兼ね、ときには相談相手となって私ども一同にとっても楽しい、実り多い旅をつづけさせてくださった古賀さんに迎えられて、ヨーロッパでの第一歩を踏みしました。そしてまた、パリの北駅を発つまでお世話になったスイス人の名運転手 Fred と、美しい2階建のデラックスバスに迎えられて私どもの旅がはじまったのです。

Romaでの3日間は、イタリア人の開放的な朗らかさと気さくさに、馴れないヨーロッパ生活の窮屈さを感じることも少なく、ながい空路の疲れをいやすには適当だったようです。しかも、建設途上にあるNew Roma市の現代的な街づくりと、古代ローマ遺跡の偉容の対比がまず私たちを打って、あらためて西欧文明の歴史の厚さ重さにふれた思いがしました。有名なCaracalla大浴場、Colosseum, Pantheon, Vatican, Treviの噴水などは昼の見学にも感動しましたが、照明に浮かんだ夜景は古代を彷彿させ深く心に残りました。Pompeiiの遺跡、碧く輝やくNapoliの海など明るい南伊を見たあと、Renaissance芸術の都Firenzeに一泊。中世そのままの建物、細い石畳を通してMichelangelo広場や花の寺院(Duomo)を見学して「太陽の道」を一路Milanoに入りましたが、ここではもう黒い髪黒い

瞳の陽気なイタリアはみられず、長靴の国の南と北が大そう興味深く感じられました。

Saint-Gothard峠では寒さにふるえましたが、アルプスを越えて入った山と湖の国スイスの美しさはまさに観光国の名に恥じず、すっかりスイス・ファンになった方も多いようです。翌日のPilatus登山は幸運に恵まれ、町の霧が山では快晴に変わって、Jungfrau はじめ雪に輝やく連山の眺望を満喫しました。Luzern 2日目の10月8日は服部団長のお誕生日で、古賀さんのはからいで服部夫人ほか2名の10月生まれの方々と共に皆でお祝をしたのも楽しい思い出です。またZurichでは、私たちのヨーロッパ・ツアーを引受けられたAtlas World Serviceの社長のご招待で木立の中の館で夕食をいただき思いがけずYodel-Quireの素晴らしいコーラスを目前に聞くことができたのは、まったく大へんな感激のひと夜でした。

国境の町Baselを過ぎればドイツですが名高いAutobahnはまったく人里離れた道路そのもので、色彩豊かなドライヴインの多いイタリアのそれとは異って、深まる霧の中をひたすら走りつづけてFrankfurtの灯がみえたときはほっとしました。しかし、濃霧で空港が使えないためホテルが満員で、Hotel Schiff(本物の船)に一泊という経験をされた方もあり、書籍展の盛況がにわかに身近になった第一夜でした。

翌11日から協会をはじめ出版関係の方々が活躍をなさった国際書籍展の見学がはじまりましたが、さすがに大会場を埋める国別、種目別の展示は整然としてしかも盛大で、書籍に関する仕事をもつ方には見逃せない豊富さでした。ヨーロッパ諸国はいうに及ばず、北米、南米、中近東、アフリカから共産圏の諸国、そして日本の出版社の進出も目に見えて力強く感じられました。ヨーロッパやアメリカなどの主な出版社は殆んど出ているため、直接仕事をまともられた方も多いようです。またヨーロッパでは、少し高価な書籍は店頭でもセロハンなどで包んであるのでなかを見ることか難かしい場合も多いのですが、会場ではコーナーのベンチで画集やスウェーデンの出版物まで心おきなく頁をめくることができて、日頃の恨みを晴らす絶好のチャンスです。関係業者にはシーズン中のフリーパスが安く発



フランクフルト 書籍展会場風景

売されており、別館のレストランの他に大会場中央のスタンドでは名物のフランクフルトソーセージや飲物などが手軽に利用できます。今回は都合で参加されなかった方にも、バス旅行の身軽な快適さと共に次回には強くおすすめしたいと思います。

会場には関係の少ない方々のために、2日目は Rüdesheim から Rein 下りを行ないましたが、河を下るにつれて霧もはれ、兩岸に広がる葡萄畑や緑の丘に聳える古城、音楽吹奏で過ぎる Lurlei の岩など旅情濃い一日でした。3日目は同じく Heidelberg の古城を訪れ、ビヤ樽ボルカでおなじみの大樽におどろき、Necker の清流を望んで城壁にもえる蔦の紅葉にゆく秋の名残りを惜しんで佇みました。書籍展の方も最終日にあたって午後には会場の片付けがはじまり、Goethehaus の見学や買物に半日をあてられたようです。

14日には Amsterdam に出発しましたが、とくに Autobahn をさけて通った Rein 沿いの眺めは見あきぬ美しさで河下りに参加できなかった方々もすっかり堪

能されました。Koblenz, Bonn, Köln, Dusseldorf を過ぎてオランダに入りましたが、経済的に豊かでヨーロッパ随一ガソリンの安いこの国からドイツに入るときは、ドイツ税関が車のガソリンの量を計って課税するという話です。

運河の街アムスでは、無数に架けられた弧形の小さな橋に大きなパスのおなかをすって、一同ひやひやさせられました。国立美術館では Rembrandt の300年祭展示を見、遊覧船の運河巡りでは河畔のミニスカートを撮った方もあります。霧の中の風車見物、Anne Frank の家の見学に加えて、夜の飾り窓見物にも人気が集まったようです。軒下に荷物を吊り上げる鉤をつけた町並は、静かな落ち着きに充ちて魅力的でした。

Brussels の名物小便小僧は町角に立つ小さな像で少々がっかりしましたが、市庁舎と王の家（市立博物館）にはさまれ、中世のギルドの旗を幾旒もかかげた Guildhaus に両側を囲まれた Grand Place が印象的です。広場を飾る夜間照明は9月で終わっていましたが、毎朝花市がたつ広場の中央には妖しげなオリエンタル・サーカスの天幕がはられ、翌日には可愛い少年鼓笛隊の赤い服と黒

い帽子が人気を集めて賑わいました。ヨーロッパ最大のグレコ・ローマン建築である最高裁判所、王宮や公園を眺めていよいよ花の都 Paris に向かいましたが、フランスに入ってから道のひどさにはいささか閉口しました。また途中ちょっとした事故でベリ到着が予定より遅れましたが、ベルギーでの運転免許は申請だけでとれるので大そう危険



ローマからミラノのへ途上。ドライブインでのミーティング。後方が我々のバス。

だということですから、車で旅行される場合はご注意ください。

Paris 第1日目の市内見学はさすがに充実していて、Roma 同様何世紀かにわたる歴史の中を駆け抜けた感じがします。Concorde広場、Elysée宮、アンバリッド(Invalides)、Eiffel塔、Louvre美術館。Montmartreの丘にはやはり画学生がたむろし、Sacré Coeur(月光の寺院)の姿がひととき荘麗でした。Pont Neuf、河岸に並ぶ古本屋、Notre Dame寺院、そしてSeineの流れ……。照明に輝く凱旋門に見とれ夜間サービスの噴水を賞でて、窖のChansonniersで古いシャンソンにParisの昔を偲び、名高いLidoのショーを見てナイト・ツアーは午前3時に終了しました。翌日はVersailles宮殿まで足をのばし、昼食は日本料理店でRoma以来の御飯や味噌汁に涙ぐまれた方もあるようです。スイスではソニーやトヨタの工場を見かけましたが、パリには年間8,000台のホンダが入っているそうで、とある店で買物をして私が小切手にサインした時お世辞たっぶりのMadameが“Oh, voiture!”と大げさな嘆声をあげたのは思わずにやにやしてしまいました。

Paris北駅を発つ時は不安でしたが、真夜中のDover海峡は波もなく夢心地のままDunkergueに入港し、霧にとざされたLondonに入りました。紳士の街Londonでは40%までが外人で、Roma以上に物騒であると聞いたときは

哑然としたものです。Buckinghamで衛兵の交替を待ち、Westminster寺院からLondon塔はかけ足でしたが、漱石の憂愁にふれた思いです。

London空港から一直線のCopenhagenも北欧の美を秘めた静かな街です。私たちの全旅程を通して好運だったことのひとつに天候がありますが、最後まで傘を開くことなく何十年ぶりという暖かさに恵まれたのも団長以下の心がけよさのお蔭でしょう。人魚の像やTivoli公園を見る余裕はありませんでしたが、帰路の好天は北極の山々を白銀に輝かせ、氷原のクレバスが黒々と眼下に見とれる壮観でした。

Anchorageの解団式まで大任を負われました服部団長、石内、鶴岡両副団長の方々、ほんとうにありがとうございました。そしてこの思い出深い旅行をまとめてくださいました渡辺委員長、人数半減にもかかわらず奔走してくださった内外航空の高田さん、ふなねな幹事の分までカバーしてお世話くださった古賀さんと市田さん、人柄も運転も抜群のFredさん、そしてご協力いただいた協会と旅行団の皆さまに、楽しい旅を無事に了えたいま、心からの感謝を捧げたいと思います。いつの日かまたRomaの街角やParisのカフェテラスで、この旅の日々を懐かしむ日のあることを楽しみにして……。(白水社・本田喜恵)

会 員 紹 介

《出版社代表業に専心十二年》

ユナイテッド・パブリッシャーズ・サーヴィス社

千代田区神田美土代町六 三進ビル。螺旋階段を昇り5坪余りのショールーム兼用事務所が12年前に開設されて、今日のU. P. S.に至る。「苦難を極めた創業時代」を斉藤氏は「番頭を務める私を快く迎え、種々御指導、激励頂きました業界皆様の御厚情は感謝に耐えません」と述懐する。

今日を歩み、将来をみざすモーレッツ会社の張切り様はすさまじい。30名の社員の平均年齢も26歳という若さである。旧ドナルド・ムア社の再編成と事業拡張に伴い、昭和42年社名を改め、代表出版社群も現在百数十社を数え、国内在庫も10万冊に及んでいる。特定な米英系出版社の代表社として、業務体制に改善を加えつつ出版社の納得の行く商品流通を、国内事情の認識の上に実現するというのが、モットーである。「時代の要求に却応した組織の確立」と、「新しい関連事業の開発」がU. P. S.社の将来に期する二大テーマである。

洋書こぼれ話

昭和初年——1930前後（その3）

丸善本の図書館長 八 木 佐 吉

1930年代は日本または東亜だけでなく、世界中が何となくさわがしいあけくれであった。満洲に上海に、支那内陸にと戦火が拡がって、いわゆる非常時態勢に急速度で入ってしまったのがわが国の様子であった。

1933年昭和8年に入ると、左傾学生と学者たちが治安維持法で4000人以上も検挙されたり、文部、外務、陸海軍省が共同で編んだ『非常時と国民の覚悟』が配られたりして国内は愈々緊張の度を加えていった。しかし、暗いことばかりでは人間は息つく暇もなくなる。一方ではヨーヨーという玩具の遊びが流行ったり、小唄勝太郎の『島の娘』や東海林太郎の『赤城の子守唄』が人々に愛唱され出したのもこの頃からである。エチオピアの皇太子の許に嫁入りしようとした娘さんが名乗り出したのも1934年であった。

1969年10月は西ドイツ国のマルク切上げ措置によるドイツの図書雑誌の値上げでひと騒ぎあったが、35年前の1935年9月は今日とは逆にドイツ書の値下げで緊急手配したことを思ひ出した。しかも為替相場の変動によった値下げではなかったのである。

アドルフ・ヒットラーが一段と活躍の度を加えてドイツの首相となったのは1933年1月のこと、越えて翌1934年には大統領のヒンデンブルグが逝くなった。それを好機に大統領を兼ねることとなりいよいよ果敢な態度で独特の政策を打ち出してきた。世紀の祭典ともいわれるオリンピックを『民族の祭典』と謂わせた、大規模のベルリン・オリンピックの開催。後の大戦争に備えるべく用意され、ドイツ国中を縦横に貫きヨーロッパ大陸を席捲すべく造られたAutobahn。そういう政策の一つとして、ヒットラー政府によってドイツ出版書の日本向け輸出に対し1935年9月9日以降定価の25%の補償が行われることになったためであ

る。手許の資料の中から探し出した丸善のアナンスメント1935年9月25日号がある。その中に候文でいささか読みづらいと思うが当時の模様をお伝えするための好資料があるので摘録してみる。

独逸書値下急告

今般独逸出版書の普及進出を策して同国政府は本年九月九日以降日本向け輸出新本書籍に対して二割五分の補償を致す事に相成り従而向後は定価の四分ノ三の廉価を以て納入申上げ得べく誠に同慶の至りに不堪候。就而弊社に於てもその意図を賛翼し多大の犠牲乍ら在庫品全部を挙げて本日より右と同率の減価を敢行以て独逸書隆興に資したき念願に有之候間微衷御諒承下され倍旧御用命の程奉願上候。

敬白

昭和十年九月十九日

丸善株式会社

ドイツで9月9日から実施した値下げ措置を、打てばひびくが如く、9月19日から全部の在庫ドイツ書の値下げを『多大の犠牲乍ら……同率の減価を敢行』したのでから真にえらいもの、見上げたものである。正に敢行である。恐らく、ひとり丸善だけでなく、同業全般が採った決断であらう。総体でどれ程のマイナスになったかは、今更判るものではないが、丸善で編集したその頃のドイツ書目録を一つの参考にとすると、四六判（今のB6判）で28冊、約1,200頁になる。1頁15点として約18,000点載っている。全部が全部在庫していたわけではあるまいが、これで相当の在庫があったことも判断がつく。ともかく、値上げより値下げは仕難いものではないのだらうか。それにいくら名にしおう、がむしやらなヒットラー政権でも日本の各書店に在庫しているドイツ書にまで2割5分の値下げ補償金は呉れなかったであらうことを書き添えておく。

こゝ数年前からの写真版を主とする美術書の出版は、海外、国内を通じて盛んなもので、ますます豪華絢爛たる書物が次々と出版されているが、1936年にフランスで刊行された Encyclopédie photographique de l'art. 40 tomes. 24×32cm. などは恐らく今日の流行の先駆をなすものといえる。㊦1巻から8巻までがルーブル博物館に当てられていた。各巻とも320頁ほどの図版と数拾頁の解説から成り代価は各巻27円50銭ほどであった。

1936年4月頃 “The Flying Flea—Le Pou-du-ciel; How to Build and Fly it.” By Henri Mignet. “空の虱”というおかしな書名の本が入って来た。この頃からグライダーが若い人達に試みられるようになったのである。わが国で㊦一回のグライダー大会が開かれたのは1936年9月のことと、当時の東京朝日新聞に記事があるという。このことなどまことに、西洋の文化または事物移入に洋書の果す役割がはっきりと出ていると思う。

1937年度の洋書輸入関係などで私にとって特に興味の深かったものをあげると——まずピットマンのショート・ハンドの百年記念のことがある。ピットマン式速記術＝近代速記術の祖と称せられる Sir Isaac Pitman(1813-1897)は初め小学校教員であったが、24歳のとき即ち1837年に “Stenographic Soundhand” なる速記法の新テクニックを説いた一書を世に贈った。僅々16頁4ペンスの小冊ではあったが、彼の新案は忽ち英国はもとより世界各国に伝播して東西諸国の現行速記法の基をなしたのであった。その後20数年間ピットマンには日曜も祭日もなく、専ら速記術の改良に努力し続々著書を公にした。一方彼は今日の英国出版界の一雄たる Pitman & Sons 社の基礎をも築いて、その死の3年前1894年には knighted された。1937年は彼の㊦一書の出版後百年に相当するため英米各地、シンガポール、メルボルン辺りでも記念祭が開かれた。我国でも斯界の方々の間で何か催はされたのかも知れないが寡聞にしてたしかなことを耳にしていない。

日本の文化史、東西交渉史に関係ある欧人で、元禄年間オランダ人として来日したドイツ人ケンペルと幕末渡来の

ロシア人レザノフの伝記が相ついで輸入されたことも記しておきたい。

ケンペル伝、書名は “Engelbert Kämpfer, der erste deutsche Forschungsreisend 1651-1716…… von Dr. Karl Merl Meier”。著者 Meier はケンペルの生地 Lemgo の人。資料は多く大英博物館蔵のケンペルの未刊行手記に依り、本文211頁の他写真版28面、長崎出島の古図等を含め大型8折本の頗る価値ある研究書である。尚本書の発刊は在独 Japan Institut に負うところが多い。ケンペルに就いては今更語るを要しないと思うので省略するが、元禄3年(1690)長崎出島の和蘭商館附医員として来朝、約3年間の滞在中甲比丹に随行して江戸へ参府すること二回、その間我国の人情風物を具さに視察した。後、和蘭を経て郷里レムゴーに帰り、医療の傍ら著述に従ひ Amoenitatum Exoticarum (1712) 及び死後出版された Geschichte u Beschreibung von Japan (日本誌) は最も著名である。尚シーボルト、ツンベルグ等と共に江戸時代に西洋科学を我国に移植した一人として夙に著聞する人でもある。

ニコライ・レザノフ伝——アメリカのマクミラン社から1937年10月 “Lost Empire: the Life and Adventures of Nikolai Petróvich Rezánov.” By H. Chevigny. (\$3.50) が出版された。云うまでもなく本書は、我国開国の黎明期に I. 日露国交の開始、II. 広東及マカオとアラスカの直接貿易の開始、III. 極東ロシア植民地の視察等の重要任務を帯びてロシア政府及露米会社共同経営のもとに、1803年7月欧露クロンスタット港を抜錨南米を迂廻してカムチャッカから長崎へ遣って来たロシア遠征艦隊司令官 レザノフ(当時わが国ではレザノット)の伝記である。同艦隊の行動は同船で送還されて来た奥州石巻の遭難船若宮丸の船頭左平、津太夫等の談に依る「還海異聞」又遠征艦隊「ナデジュダ」号の艦長クルーゼンステルン、「ネワ」号のリシヤンスキー及乗員ラングスドルフ等の世界一周記に依って夙に普く知られ、又ロシア最初の世界一周航海であった。

“日ソ国交の云々されるとき本書は外交史家、開国文明史家は勿論一般読書家も一読以って両国々交の淵源に遡るのも無益ではないと信ずる”と当時の紹介文に出ている。

海外ニュース

マルク9.29%切り上げ

西独政府は、10月24日、マルクの平価を9.29%切り上げるとともに、9月30日から採用していた自由変動相場を固定相場に復帰し、いずれも週明けの27日から実施すると発表した。また現在停止中の国境税調整は、永久に廃止することも決定した。

	1 マ ル ク	1 米ドル当り
	ドル 表 示	円 換 算
新 平 価	27.3224セント	98.36円
(旧平価)	(25.00セント)	(90.00円)
		3.66マルク
		(4.00マルク)

—昭和44年10月25日(土)日本経済新聞夕刊より—

ケニカート・プレス買収さる

ニューヨーク州ポート・ワシントンの Kennikat Press とその子会社 Ira J. Fridman, Inc. はテキサスのダラス市の Taylor Publishing Company に買収された。

ケニカート社は1963年に創立、人文、社会科学、文学の分野のリプリントを行ってきた。フリードマン社は、ニューヨーク州史のリプリントのシリーズを出している。

テラー社は、Insilco Corporation の系列会社で、高校や大学の年鑑や、教科書の出版社である。

なお、ケニカート社の創立者である Cornell Jaray 氏は、今後とも同社の社長の地位にとどまる模様である。

(Publishers' Weekly, 1969年11月10日号より)

東 独 の 児 童 書

IWE-Kulturnachrichten 163/69 によれば、東独の代表的児童書出版社である Kinderbuchverlag の輸出は著しく伸びている。同出版社は、これまで総計500万冊以上を輸出しているが、その約半分は社会主義諸国に向けてである。そのほかは、ユーゴスラビア、ベルギー、デンマーク、フィンランド、フランス、オランダ、ノルウェー、オーストリア、スウェーデン、スイス、アメリカ、西独などである。東独の児童書に対するこのような関心の増大は、その芸術的水準の高さと、価格が比較的低廉なことに帰せられるであろう。

(Börsenblatt 西独版、1969年10月21日号より)

—紀伊国屋書店提供—

Rowohlt フランクフルトに不参加

Rowohltは本年のフランクフルト書籍見本市に参加しなかったが、Badische Zeitung 9月17日号によれば、それは本年の見本市に騒擾が予想されたためだけでなく、とくに同社に対して SDS (Sozialistischer Deutscher Studentenbund: 社会主義ドイツ学生連合) から脅迫が寄せられたからである。 —資料 Enderle 書店提供—

西独出版界における企業合同

Georg von Holtzbrinck, Willy Droemer, Ernst Leonhard, Friedrich Vogel, Erwin Barth von Wehrenalp の

各出版社は各企業を合同して「大ドイツ出版社一名称未確定」を設立することを明かにした。Holtzbrinck は、記者会見において、Droemer-Knauer, S. Fischer Econ, Classen, Goverts, Marion von Schröder, Stahlberg, Krüger を含む合同する出版社は、その特色を保持しながら、各自の名称で営業をつづけるとのべた。

この企業グループには、129の出版社のほかに、Die Deutsche Buchgemeinschaft, Der Deutsche Bücherbund, Die Evangelische Buchgemeinde, Die Deutsche Hausbücherei, Der Moderne Buchclub が参加することになっている。これらのブック・クラブは合計170万の会員と1億3千万マルク以上の売上高を有している。Der Deutsche Bücherbund と Die Büchergilde Gutenberg との間の業務提携はつづけられることになっている。新聞紙グループには Verlag Handelsblatt が属し、また週刊紙 Christ und Welt に50パーセントの資本参加がおこなわれる。Holtzbrinck によれば、Handelsblatt と Industriekurier との間の業務提携が予定されている。しかし両紙とも編集方針を変更することなく、発行をつづけるであろう。両紙の売上高は3千万マルクになる。

特別の専門誌グループにおいては、参加企業の総生産高はまとめて計算される。その売上高は1千2百万マルクになる。Hamseatische 印刷所と May 印刷所との業務提携を行われるはずであり、年商は2千万マルクになる。この大出版社が Saarbrücker Zeitung に49%の資本参加をすることに成功するならば、さらに共同の印刷所が Saar に設立されることになる。

Leonhard が記者会見でのべたように、かれらは「大ドイツ出版社」の売上げを2億5千万マルクと見積っている。5社の共同声明では、大きな合理化の結果の利益は、読者、著者、書籍販売業者にひとしく好都合なものとなると述べている。とくに配慮されているのは、新しい対象と近代的コミュニケーションの手段の発展をめざすことである。さらに外国の出版社との提携をなされるであろう。Holtzbrinck が強調したところによれば、書籍の過剰生産はさけられるであろう。若い作家の奨励も考えられている。共同の文庫本の出版および事典の出版も計画されている。UPI (Badische Zeitung, 1969年9月17日号)

—資料 Enderle 書店提供—

ニュース

- 英国 Penguin Books の Mr. H. F. Paroissien 10月中旬来日。
- 仏国 Nationale des Editeurs Exportateurs de Publications Françaises の Directeur, Monsierr E. u. de Salinelles 10月中旬来日。
- 米国 McGraw-Hill Book Company, International Division の Manager, Mr. H. T. Currie 10月中旬来日。
- 米国 Plenum Publishing Corporation の President, Mr. E. M. Coleman 10月下旬来日。
- 独国書籍販売商組合 Ausstellung-u. Messe-GmbH の Dr. S. Taubert 10月中旬来日。
- 米二 Collier-Macmillan の Mr. Pak Choung 10月中旬来日。

総代理店ご案内

海外出版貿易株式会社 ☎ 291-4271

Plenum Publishing Corporation, N. Y.

All Publications.

(Except Da Capo Press)

紀伊国屋書店 ☎ 354-0131

Kraus Reprint Co., New York

Monthly Labor Review.

(The Bureau Labor Statistics of the U. S.

Department of Labor)

Vols. 1-20. Washington, 1915-1925.

cloth set ¥ 395,120

paper set 347,600

Arnulf Liebing OHG., Würzburg

Recht der Arbeit.

(Hrsg. von Prof. Dr. Hans C. Nipperdey)

Jg. 1-12. 1948-1959. paper set 110,400

Wirtschaftskonjunktur.

(Berichte des Ifo-Instituts für

Wirtschaftsforschung)

Jg. 1-6. 1949-1954. paper set 62,100

九善株式会社 ☎ 272-7211

The American Heritage Dictionary of English

Language

Plain Ed. ¥ 3,180

Thumb Indexed Ed. ¥ 3,580

Deluxe Ed. ¥ 5,000

(American Heritage Pub./Houghton Mifflin)

リネア・イタリアーナ

世界一の
モード雑誌



最新刊
No.15 ¥3,800

ARNOLDO MONDADORI EDITORE/MILANO

日本総代理店  三洋出版貿易株式会社

本社 東京都中央区宝町2-8 TEL (535) 3391(代)
大阪(941)2098 京都(231)4620 新居浜(2)2530 町田(95)2098

昭和44年11月 通巻第31号 洋書輸入協会

編集者 寺久保一重

☎ 103 東京都中央区日本橋江戸橋1-15-5 藍沢ビル302号室

☎ 271-6901

☎ 530 関西支部 大阪市北区芝田町28 第一山中ビル

☎ 371-5329